

平成28年度 Boeing Externship Program Boeing Summer Seminar を金沢工業大学で開催

金沢工業大学 工学部 航空システム工学科
佐々木 大輔、小栗 和幸、廣瀬 康夫

1. はじめに

昨年、本誌64号にて、金沢工業大学の「英語でのプロジェクト活動に向けた航空学生を対象とした英語教育の試み」の中で紹介したBoeing Japan社が行っている教育プログラムである Boeing Externship Programの最終発表会である Boeing Summer Seminarが9月9日に金沢工業大学アントレプレナーズラボ（12号館）4階イノベーションホールにて開催された模様を紹介する。

2. プログラム内容

Boeing Summer Seminarは、Boeing社が学生を対象に行っている教育プログラム Boeing Externship Programの一環として行われ、本学は、東京大学、東北大学、名古屋大学、九州大学と共に参画している。本稿では、学生の活動を中心に本プログラムの紹介を行う。

本プログラムに参加した学生は、英語での成果発表を目的として、本学英語教育課程の教員の協力を得て春期休業期間に開講された特別航空英語講義を受講し、航空英語の知識を増やすと共に英語力の強化を行った。成果発表や、それに伴う質疑応答を英語で行うために必要となるリスニング力やスピーキング力、また英語でのプレゼン能力向上を目的

とした全6回の講義を通し、学生らは英語での発表に少しずつ慣れていった。4月から5回にわたって、5大学とBoeing Japan、およびBoeingシヤトルとをネットで繋ぎ、パワーポイントの資料を共有した講義が行われ、学生らは航空業界の現状について知識を増やしていった。

本学は2年前から本プログラムに参画しており、今年はホスト大学として、Boeing社の社員及び参画大学の学生・教職員を本学に集めて開催した。当日のスケジュールは次頁の通りである。午前は、本学のツアーを実施し、参加者らは本学のプロジェクト活動の拠点である夢考房41で学生プロジェクトの作業風景、ライブラリーセンター（図書館）で稀観本、航空システム工学科の研究室（24号館1階）でフライトシミュレータおよび実機展示の見学を行った。昼食を挟んでアントレプレナーズラボ

（12号館）4階イノベーションホールに移動し、午後の部は大澤敏学長のあいさつから始まった。各大学によるプロジェクト成果の発表・質疑応答、Boeing Japan社長のBrett Gerry氏の講演が行われた後に、表彰式が行われ、1位チームが発表された。



図1: Boeing Japan社長のBrett Gerry氏の講演に耳を傾ける学生たち

— Boeing Summer Seminar 2016 スケジュール —

10:25-10:45	夢考房見学 (オプションツアー)	
10:45-11:55	KIT 見学 (LC 稀観本、実機展示、フライトシミュレータの見学)	
11:55-12:35	ランチ	
12:45-12:50	大澤敏学長 挨拶	
12:50-13:20	「東北大学」発表	／Q&A
13:20-13:50	「東京大学」発表	／Q&A
13:50-14:20	「名古屋大学」発表	／Q&A
14:20-14:50	「九州大学」発表	／Q&A
14:50-15:20	「金沢工業大学」発表	／Q&A
15:20-15:40	休憩	
15:40-16:25	Boeing Japan 社長 Brett Gerry 氏の講演／Q&A	
16:25-16:40	休憩	
16:40-17:00	授賞式、閉会式	
17:15-17:55	夢考房見学 (オプションツアー)	

3. 学生によるプレゼンテーション

本プログラムに参加した本学の学生は、大学院工学研究科機械工学専攻1年次の岩本大君、神田拓磨君、國塩泰希君、塩崎友也君、中村輔君、村井建太君、山崎祐輔君の7人と、航空システム工学科4年次の大野雄太君、島崎樹君2人の計9人である。

参画大学は、テーマを決めてプロジェクト活動を開始し、本学は「空港の待ち時間の有効活用」「赤ちゃん連れに優しい飛行機」の2テーマを設定した。

学生らは、設定したテーマに対してグループでの調査に基づき提案を考案し、数回の英語での発表リハーサルを通して発表資料・発表方法を向上させてきた。加えて、直前(9月5日～8日)には午後を發

表練習に充てて、最終発表に向けて準備をしてきた。その集大成として「The 3D VR Before the Trip (空港の待ち時間の有効活用)」「Babies in Flight (赤ちゃん連れに優しい飛行機)」のタイトルで発表を行った。学生らは、春期休業期間中からグループでの発表を意識して練習してきたこともあり、自信を持って発表を行っていた。Boeing社の採点では残念ながら1位になることは出来なかったが、他大学の参加者からの反応も上々であり、十分に素晴らしい発表であった。1位の九州大学は、グループでの分かり易い発表に加えて、ビジネスの提案として成立するよう予算計画案も含まれていたことが評価されたと考えられる。



図2: 「The 3D VR Before the Trip (空港の待ち時間の有効活用)」をテーマに寸劇で発表する学生

4. おわりに

Boeing Summer Seminarを金沢工業大学で開催するに際し、多数の関係者のご協力を感謝する。また、学生の英語での最終発表に向けて、英語教育課程の多数の教員から熱心な学生指導を賜り、厚く御礼申し上げる。

また、今年度は経営情報学科の教員の協力を得てプロジェクトマネジメント講座を開講し、分野を超えた交流の中で、学生がプロジェクトを円滑に進められるよう指導をして頂いたことも特筆できる。

このような活動が、本学の学生が英語学習に取り組む動機付けや異分野を理解する活動となり、「世代・分野・文化を超えた共創教育」すなわち、イノベーション創出に向けた金沢工業大学の新たな教育の取り組みへの一助となれば幸いである。

来年度もBoeing Externship Programに参画し、他の参画大学で開催されるSeminarでの発表を行う予定である。



図3: Brett Gerry 氏と記念撮影に納まる参加学生